

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.31
2015. July

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。

95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て

2014年琉球病院院長に就任。

日本病院・地域精神医学会理事。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

新病棟完成と機能再編

国立病院機構琉球病院 院長 福治 康秀

常日頃から、各関係者の皆さんには大変お世話になっております。

いよいよ新病棟が完成の運びとなりました。7月には記念式典・内覧会、そして病棟移転を予定しています。新病棟完成にあたりましては、各関係者の皆様のお力添えがなければ、成し遂げることはできなかったと思います。心より感謝申し上げます。

まず、新病棟について、簡単に御説明したいと思います。新病棟は旧中病棟が建っていた場所に位置し、3階建てでそれぞれ東Ⅰ、東Ⅱ、東Ⅲという病棟名としました。東Ⅰ病棟へは旧男子病棟(南Ⅱ病棟)が、東Ⅱ病棟へは旧女子病棟(北Ⅱ病棟)が、そして東Ⅲ病棟へは旧認知症病棟(中Ⅰ病棟)が移動します。病棟は男女混合とし、それぞれの病棟が機能再編し、新たに以下のような病棟名・コンセプトで運用することとしました。

東Ⅰ病棟は「急性期病棟」で、精神科急性期を中心とした患者さんの受け入れを行います。修正型電気けいれん療法(m-ECT)を実施でき、効果と専門性の高い治療を集中的に行い、多職種チーム医療を徹底して早期退院を目指します。

東Ⅱ病棟は「クロザピン治療病棟」で、治療抵抗性疾患や「重度かつ慢性」の患者さんの受け入れを行います。全国初のクロザピン治療病棟としてクロザピン地域連携「沖縄モデル」の拠点病院を担い、県内精神科病院と連携を深め、沖縄県内のどこに住んでいてもクロザピン治療が提供できることを目標にします。

東Ⅲ病棟は「認知症疾患治療病棟」で、認知症の総合的治療を提供します。MRIや心理検査による質の高い診断、新しい認知症ケア「ユマニテュード」の導入、内科医による身体疾患治療、精神・身体両面の専門的リハビリテーション、地域向け研修の充実に取り組み、地域住民の皆様のニーズに答えていきます。

新病棟では、当院がこれまで取り組んできた多職種チーム医療をさらに推進し、質の高い専門医療を提供します。新しい琉球病院を今後もよろしく願っています。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
- ユニット 4床
- ・重症心身障がい 80床
- ・医療観察法 37床



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き

進捗状況	本体工事：請負業者	電気設備	(株)九電工
		機械設備	(株)三建設備工業
		建築(第1期)工事	(株)浅沼組
		建築(第2期)工事	(株)浅沼組

新病棟(第1期工事)完成予定.....平成27年7月

教育・研修

- ふれあい看護体験 メインテーマ「看護の心をみんなの心に」 平成27年7月31日(金)13:30～16:00
高校生対象 施設見学・看護体験
- 包括的暴力防止プログラム(CVPPP)トレーナーフォローアップ研修 平成27年7月27日(月)1日間

地域医療連携室だより

琉球病院にはアルコールや認知症、統合失調症など様々な疾患を持った患者様が来院されます。最近では児童の受診相談が多くなっており、6月から新しく児童担当の相談員(社会福祉士)を1名、心理室に配置されることになりました。人数も増え、これまで以上に質の高い医療や福祉サービスを提供していただけるよう、努めていきたいと思っております。お困り事があれば、地域医療連携室にお気軽にご相談下さい。



空床状況
6月24日現在

精神科病棟
5床

認知症
2床

アルコール
5床

児童思春期ユニット
2床

※入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間

8:30～17:15(土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133(代)
内線: 231・234
FAX: 098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン (CLZ) 治療を開始し、全症例は138例になりました。平成27年5月の新規のCLZ導入は1例でした。この例は他院に入院され、粗暴行為などのために隔離をされていましたが、今回CLZ導入目的で当院に転院になりました。また5月には当院に長期間入院をしていた患者様が2年余りのCLZ治療により回復をされ、16年ぶりに自宅へ退院をされています。このように重度の精神症状を持った患者様の病状が治療により改善しており、退院する例も60例を超えています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECT (修正型電気けいれん療法) による治療を行っております。平成27年5月の治療実績は4例であり、各症例とも改善傾向が認められています。

こども心療科

以前のマンスリーにて思春期女子グループと小学校高学年グループの紹介をさせて頂きました。その後、年齢やこどもの課題に合わせたグループを新たに立ち上げ、現在実施しております。新しいグループは①就学前準備グループ、②親子グループ、③ビジョントレーニンググループです。今後新たに小学校低学年のグループも実施していく予定です。集団療法に興味・関心のある方、こどもを参加させてみたい等、ございましたら、まずは地域医療連携室にお問い合わせ下さい。初診の場合、診察が必要となります。

認知症医療

7月是新病棟が完成し、認知症病棟は14日に新しい病棟へ引越します。新しい病棟は3階にあり、ベッド数も50床から56床に増えます。また、個室を多くし、行動心理症状が強い急性期の患者さんをいつでも受け入れられるように準備しています。

認知症の治療は、2つの側面があります。1つは、認知症本来の症状である中核症状に対する治療です。病状が進行しないように、今持っている能力を維持していくに関わります。もう一つは、不眠・拒食や思い込み、易怒性、徘徊のような行動心理症状と言われる、一時的な症状です。行動心理症状は治療(コントロール)可能です。また、自宅や施設で介護するときにみんなが困っているのが、行動心理症状です。行動心理症状さえコントロールできれば、認知症が進んでも長く住み慣れた地域で暮らしていくことが出来ます。

認知症の患者様が、いつまでも住み慣れた地域で暮らしていける。これは、患者様個人の事にとどまらず、ご家族や地域の人の幸せにも繋がっていくことです。病棟の建て替えを機に、より一層皆様の役に立つ、認知症病棟にしていきたいと考えています。

重症心身障がい児医療

度々、この欄で重症心身障害者病棟の利用者様との徒然なる日常を書いて参りましたが、今回も気軽に読んで頂けると幸いです。今回は重度知的障害・自閉症スペクトラム障害と診断されている、こだわりの強いOさんのお話。ご自身が決めたことは、何が何でもこだわって思ったようにしないと気が済まないOさん。お掃除中の個室の扉は、閉まっている状態でないと、自ら走って開けられます。このようなこだわりにより、特にケアの大変な利用者さんの1人です。また温度感覚・痛覚が、他の方に比べ鈍い部分があるようで、いつも高温のシャワーを浴びていらしゃいますし、多動により傷を作っても、痛がる様子は全く見られません。そんなOさんですが、ある療育中のこと、楽しみなおやつを前にアルコールで手指消毒を行っていました。しかし職員が誤ってスプレーの口がずれた状態で噴射したところ、ご本人さんの顔にアルコールが1回かかってしまいました。前述したように、傷に対して痛みを感じる素振りも見せないOさんですが、この時ばかりは目にアルコールが入ってしまったのか、顔を真っ赤にして顔を拭かれていました。その際職員が、顔をすぐティッシュで拭いて問題ありませんでしたが、後から振り返り「(あのOさんでも) 痛がる場面もあるのだな」と、当たり前なのですが、しみじみ振り返りました。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では5月現在、外来通院の患者様62名、入院中の患者様23名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

当院の多職種チーム (R-ACT) で臨床研究部での発表を行いました。2事例について約2ヵ年間の経過を発表しました。1事例は、お金を貯めて欲しいものを買いたいとアルバイトを始めて半年継続した方。1事例は、病気の再発がなく、地域で安定した生活を送れている方です。チームでは半年間で支援を継続するかどうかの判定を行います。2名の方は継続した方達です。就労をしたいが、どのようにしたらよいかわからない、病気が重くて再発を繰り返し地域で安定した生活を送れない等さまざまな利用者へラクト (R-ACT) チームと契約を行い、1チームが対応できるケースを今後も支援をしていきます。

臨床研究部活動状況

【研究成果報告会のご報告】

平成27年6月1日 (月) に臨床研究部研究成果報告会を開催いたしました。今年度は、クロザピンに関する研究で多くの実績を残された木田直也医師に基調講演をしていただき、報告会では、赤坂さつき栄養管理室長、益崎和也薬剤師、原田聰志医師、當山良徳作業療法士、森根薫精神保健福祉士、小橋川洋史看護師、安里明友美看護師の7名の方に研究報告をしていただきました。普段触れることの少ない多職種・多領域からの発表に関心を寄せる参加者が多く、大勢のスタッフに参加していただきました。他にも多くの研究成果があり、それらを琉球病院臨床研究部研究業績年報第3号としてまとめました。今後も優れた医療につながるような臨床研究を進めていきたいと思っております。